各大学病院輸血部(門) 御中

全国大学病院輸血部会議技師研究会

アンケート調査責任者

　福島県立医科大学附属病院

 輸血・移植免疫部

川畑　絹代

DEL赤血球製剤輸血による抗D産生症例の調査のお願い

晩秋の候、皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、DELは1赤血球あたりのD抗原の発現量が30未満と極めて少ないRhDの亜型であり、日本人での頻度はD陰性判定の約10%との報告があります。またDELはC抗原と関連性があると考えられています。

血清学的検査においては、間接抗グロブリン試験によるD陰性確認試験も陰性となり、D抗原を証明するには抗Dによる吸着解離試験が必要なため、通常、供血者としてもD陰性として扱われています。

D陰性患者にD陰性赤血球製剤を輸血したにも関わらず、輸血後に抗Dを産生した、あるいは抗D抗体価の上昇が認められたという症例が日本国内で6例、国外で12例報告されていて、DEL赤血球製剤輸血による抗D産生と考えられています。

そこで、D陰性者への安全な輸血療法に貢献することを目的とし、これまで日本国内で報告されたDEL赤血球製剤輸血による抗D産生症例以外に、同様の症例があるかを調査するアンケート調査にご協力いただきたいと存じ上げます。

また、今後、多くの施設の方々に加わっていただき、より詳しい内容についての多施設共同研究を進めていきたいと考えております。

共同研究施設の参加を募集していますので、こちらもよろしくお願いいたします。

ご多忙のところ申し訳ありませんが、　12**月31日**までにご回答いただけるようよろしくお願いいたします。なお、本調査は技師研究会役員会の承認を経て実施しており、結果は技師研究会にて報告させていただきます。

平成28年　9月30日

【回答送付・問合せ先】

福島県立医科大学附属病院

川畑　絹代

Mail：kawabata@fmu.ac.jp

TEL：024-547-1536